

Top Message

ごあいさつ

中長期経営ビジョン
「KOBELCO VISION “G”」で
掲げたグループ像を目指し、
新しい価値の創造と
グローバルな成長を
目指してまいります。



代表取締役社長

佐藤 廣 士

当期のご報告

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

まず、当社グループの第157期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)における取組みならびに連結業績についてご報告申しあげます。

当期のわが国経済は、国内外における景気対策の発動や在庫調整の進展、海外経済の改善を背景に、持ち直しに転じました。また、海外においても同様に、中国で景気は回復したほか、米国や欧州においても夏場以降本格的ではないものの持ち直しに転じました。

しかしながら、平成20年秋からの景気の大幅な落ち込みの影響が、当期の前半にまで波及したことから、上半期が好調であった前期と比べると、全体的には低い水準にとどまりました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業を中心に、第2四半期以降、販売数量は回復したものの、当期の数量は、年度前半まで極めて高水準に推移した前期の水準には届きませんでした。

この結果、当期の売上高は、前期に比べ5,062億円減収の1兆6,710億円となり、営業利益は、総コストの改善活動

に注力したものの、前期に比べ709億円減益の460億円、経常利益は、前期に比べ506億円減益の102億円となりました。また、多額の特別損失の計上や繰延税金資産の取崩しを行なった前期と比べると、当期純損益は、377億円改善し、63億円の利益となりました。

当期の配当について

当期の配当につきましては、中間配当を見送らせていただきましたが、期末配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくという基本方針に基づき、回復基調にある業績などを勘案し、1株につき1円50銭とさせていただきます。事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当期の取組み

当社グループは、当期においても、常に地球温暖化問題への貢献を念頭におきつつ、「オンリーワン」と「ものづくり力」をキーワードに国内外で事業競争力を強化し、持続的成長を追求することに取り組んでまいりました。

当社グループが注力しているMIDREX[®](ミドレックス)法による還元鉄プラントの分野で大型案件の受注があったほか、次世代製鉄法の分野では、米国ミネソタ州に建設した新製鉄法「ITmk3[®](アイティ・マークスリー)」の商業第1号プラントが本年1月に生産を開始しました。また、3月にはベトナムにおいて、年産240万トン規模のITmk3[®]プラントを建設するプロジェクトの事業投資ライセンスを取得し、今後、平成23年1月のプラント建設開始を目指して詳細企業化調査を実施する予定です。

自動車軽量化ニーズの高まりに対して、当社は鋼材の薄板ハイテンや高強度線材、アルミパネル材などの拡販に注力しておりますが、自動車サスペンション用のアルミ鍛造部品についても、今後大幅な需要の伸びが見込まれる中国への拠点設立の検討を行ない、江蘇省蘇州市に製造・販売会社を設立することを本年4月に決定いたしました。これにより、平成24年には、日本・米国に中国を加えたアルミ鍛造部品の3極供給体制が整い、自動車メーカーの現地調達化ニーズに応えることが可能となります。

このほかにも、インドの建設機械市場に本格参入を目指し、現地に油圧ショベルの生産工場を建設することを決定し、また、需要の増加、多様化に対応すべく、中国四川省成都市にある工場の移転・拡張工事も行ないました。

国内でも、機械関連事業の主力製品である大型圧縮機の国内最大級の試運転設備の設置工事が本年2月に完了し、高砂製作所内で稼働を開始しました。この設備によって、より大型の圧縮機の試験を行なえるため、主に米国・欧州・中国・中近東の石油化学、石油精製をはじめとする各種プラントで使用される大型圧縮機の市場に本格参入することが可能となりました。

当社の技術力という面では、高い耐久性、耐震安全性が必要な東京スカイツリー(東京都墨田区に建設中の電波塔)の地

上450メートル以上の部分に、当社の国内最高強度の厚鋼板を使用した鋼管が採用されたことも一例として挙げられます。

今後の取組みについて

当社グループを取り巻く中長期の事業環境は、基本的には、少子高齢化、製造業の国外移転などを背景に、国内需要は総じて減少し、新興国を中心に海外の需要が伸長するという構図が予想されます。さらに、地球温暖化ガス問題が世界的に深刻になるにつれ、国内の操業制約や、原子力発電の拡大、自動車のハイブリッド化や電気自動車の普及など、低炭素社会に向けて、需要構造が急速に変化していくものと見通しております。

■中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」について

このような環境認識のもと、本年4月、当社グループは「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』～新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して～」を策定いたしました。このビジョンでは、多様な素材系、機械系のビジネスで培った神戸製鋼グループならではの知識・技術を更に融合することにより、

- グローバル市場において存在感のある企業グループ
- 安定収益体質と強固な財務基盤を備え持つ企業グループ
- 株主・取引先・従業員・社会と共栄する企業グループ

の3つを5年～10年後の神戸製鋼グループ像として目指すことといたしました。また、このビジョンでのキーワードになるグローバル(Global)、グループ(Group)、成長(Growth)の頭文字をキャッチフレーズに掲げました。

このようなグループ像に向けて、まず、安全・コンプライアンスへの取組みを徹底し、その上で、以下の基本方針を掲げ、新しい価値の創造とグローバルな成長を目指してまいります。

■オンリーワンの徹底的な追求

オンリーワン製品・技術・サービスについて、既存のものは、市場での地位向上、採算向上に継続して注力するとともに、新たなオンリーワンの創出を追求してまいります。

加えて、当社グループならではのサービス、すなわち、事業としてのアフターサービスはもちろんのこと、変化する顧客のニーズを常に発掘・捕捉し、より良い製品・技術として反映することにより、顧客満足度を向上させてまいります。

また、顧客・社会の志向と歩調を合わせ、既存ビジネスにとどまらず、その更に川下の領域や、次世代製鉄法のような川上の領域にも事業展開することを積極的に追求し、付加価値を飛躍的に向上させることも狙ってまいります。

■ものづくり力の更なる強化

「ものづくり」とは、企業理念である「信頼される技術、製品、サービスを提供します」を実践するための「営業・マーケティング～開発・設計～調達～製造・生産」を連続体として考えるトータルの活動です。また、「ものづくり力」とは成長のための「エンジン」でもあると定義し、その強化にグループ全体で取り組んでまいります。

■成長市場への進出深化

成長する新興国市場を中心に、需要の拡大する地域・分野を追いかけ、その特性に見合った事業展開を行なってまいります。

また、オンリーワンの技術・サービスをもって、国内外の成長分野である環境・資源・エネルギー向けの取組みを加速させてまいります。

■グループ総合力の発揮

グループ内の知恵・アイデア・ノウハウを一層集積・流通させ、新たな価値を創造してまいります。

また、グループ横断プロジェクト活動による総合技術力・提案力の向上、技術融合による新たなオンリーワン創出、「KOBELCO」

ブランドの定着など、グループ内に横串を通す活動を推進することにより、総合力の強化に取り組んでまいります。

加えて、事業環境が激しく変化する中、事業基盤の強化・変革を担うことのできる人材、グローバルな事業展開にも対応可能な人材を計画的に育成してまいります。

■社会への貢献

地域社会や環境保全への貢献を中心に、積極的に社会的責任を果たしていくとともに、地球温暖化問題に対しても、事業活動を通じて貢献してまいります。また、コンプライアンスに対する「感度」の高い企業風土をグループ全体で醸成してまいります。

当社は、これらの様々な取組みを通じて、持続的な企業価値の向上を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

● 建設機械関連事業 ● 機械関連事業 ● 鉄鋼関連事業

2009 (平成21年)

10月 ● インドに油圧ショベルの生産工場を建設することを決定

12月 ● インド ジンダル・スチール&パワー社より世界最大級のMIDREX[®]法による還元鉄プラント受注

2010 (平成22年)

1月

機械関連事業

米国ミネソタ州のITmk3[®]プラント商業第1号機でアイアン・ナゲット生産開始

当社が開発した新製鉄法ITmk3(アイティ・マークスリー)は、従来の高炉法とは全くコンセプトの異なる当社独自の製鉄法で、1994年の現象発見以来様々な開発の段階を経て、このたび商業第1号機による生産を開始しました。年産50万トンのアイアン・ナゲット生産能力を有する本プラントは、当社と、米国の大手電気炉メーカー「スチール・ダイナミックス社」が共同で、米国・ミネソタ州Hoyt Lakes(ホイットレイクス)市に建設したものです。

● ハイブリッド油圧ショベル「SK80ハイブリッド」の販売開始

鉄鋼関連事業

東京スカイツリー[®]に国内最高強度の当社円形厚肉鋼管の採用が決定

佐々木製罐工業株式会社と当社が共同開発した国内最高強度(780N/mm²級)の建築用円形鋼管を、東京スカイツリー最上部のゲイン塔向けに受注しました。最大板厚80mmまでの780N/mm²級厚肉円形鋼管が建築構造物に採用されるのは、国内初となります。

東京スカイツリー向けの当社円形鋼管は、このほかにも490N/mm²級鋼管および590N/mm²級鋼管が、塔本体部に採用されています。

3月

機械関連事業

ベトナムでのITmk3[®]プロジェクト事業投資ライセンス取得

当社は、ベトナム政府より、同国ゲアン省において年産240万トン規模のITmk3プラントを二段階で建設(総事業費約1,000億円)するプロジェクトについての事業投資ライセンスを取得しました。

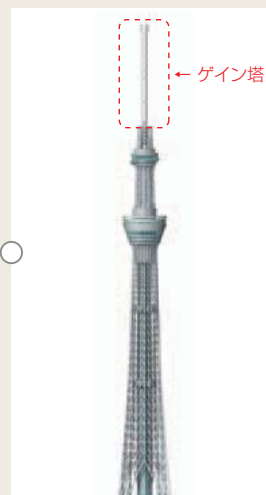
ベトナムは将来的な鋼材需要の伸張が見込まれている一方で、現在は鉄源の大部分をスクラップや半製品の輸入に依存している状況です。本プロジェクトは、ベトナム国内の鉄鉱石、石炭を主原料として高品位の鉄源を製造できるため、ベトナム側の期待も非常に大きいプロジェクトです。



商業第1号プラントの全景



初生産のアイアン・ナゲット



東京スカイツリー最上部のゲイン塔

連結

売上高

1兆6,710 億円
(前年同期比 $\triangle 23.3\%$)



営業損益

460 億円
(前年同期比 $\triangle 60.6\%$)



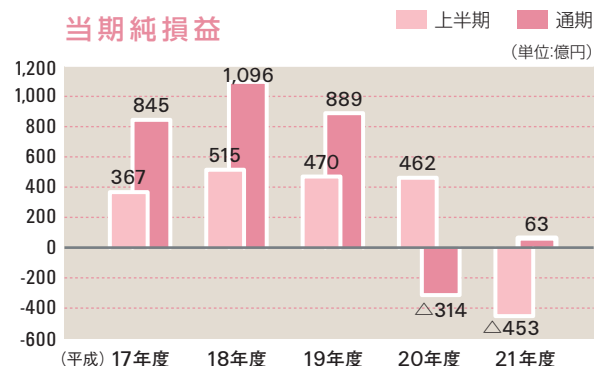
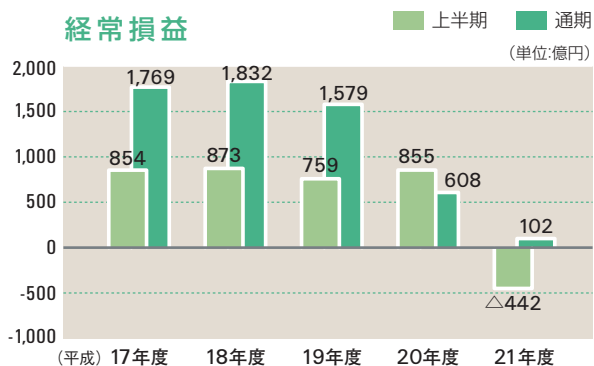
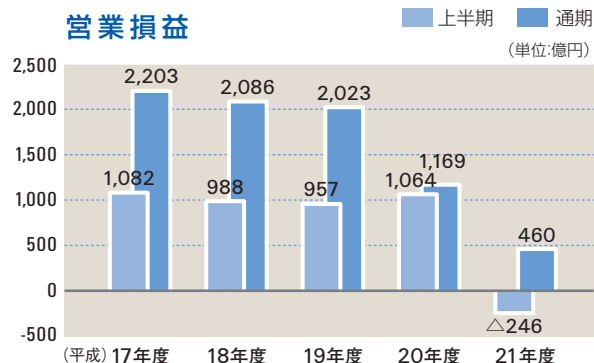
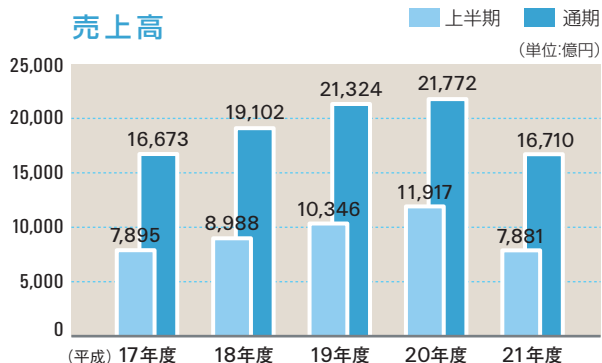
経常損益

102 億円
(前年同期比 $\triangle 83.1\%$)



当期純損益

63 億円
(前年同期比 $-$)



(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

当期の概況

当期のわが国経済は、国内外における景気対策の発動や在庫調整の進展、海外経済の改善を背景に、持ち直しに転じました。また、海外においても同様に、中国で景気は回復したほか、米国や欧州においても夏場以降持ち直しに転じました。

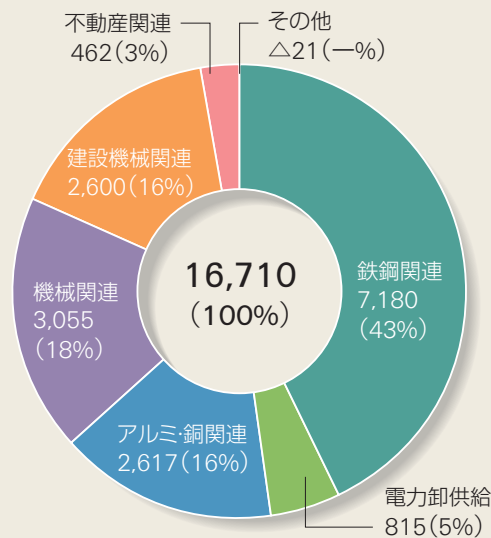
しかしながら、世界経済全体としては、前期の水準と比べると、落ち込んでおり、景気の低迷が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業を中心に、第2四半期以降、販売数量は回復したものの、当期の数量は、年度前半まで極めて高水準に推移した前期の水準には届きませんでした。

この結果、当期の連結業績は、売上高は前期に比べ5,062億円の減収の1兆6,710億円となり、営業利益は、総コストの改善活動に注力したものの、前期に比べ709億円減益の460億円、経常利益は、前期に比べ506億円減益の102億円となりました。また、多額の特別損失の計上や繰延税金資産の取崩しを行なった前期と比べると、当期純損益は、377億円改善し、63億円の利益となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ3,684億円減収の9,909億円、営業利益は592億円減益の11億円、経常損益は472億円減益の128億円の損失となりました。一方、当期純損益は、税効果調整の影響などから28億円の利益となり、前期に比べ321億円改善しました。

事業別売上高(平成21年度) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高436億円と事業間の内部売上高等の消去額△457億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△21億円となっています。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼関連事業

7,180 億円
(前年同期比 △29.8%)



鋼材出荷数量は回復に転じましたが、全般には前期を下回りました。

- 自動車、電機向け需要は夏場以降回復に転じ、中国を中心とした海外需要も増加したものの、回復途上にあり、鋼材出荷数量は前年度比では減少。

- 鋼材販売単価は原材料価格の値下り影響から下落。

- 鑄鍛鋼品の売上高は前期を下回る。

- 溶接材料やチタン製品の需要は低迷し、前期を下回る。

- 営業損益は、固定費削減などに取組むも、243億円の損失。



神戸製鉄所 第5連続鑄造設備



電力卸供給事業

815 億円

(前年同期比 +1.1%)



安定操業を継続しています。

- 営業利益は減価償却費が減少し、前期比30億円増益の203億円。



神鋼神戸発電所 石炭サイロ



アルミ・銅関連事業

2,617 億円

(前年同期比 △31.0%)

自動車、液晶・半導体製造装置
向けの需要が回復に転じました。

- 飲料用アルミ缶材の販売量は冷夏の影響を受け減少。
- 自動車向けアルミ圧延材は環境対応車種の販売好調により回復。
- 液晶・半導体製造装置向けも回復。
- アルミ圧延品全体の販売量は回復途上にあるため、前期を下回る。
- 銅圧延品の販売量は、板条は前期を上回るも、銅管は、エアコン需要の低迷で減少。

- 販売価格に転嫁される地金価格が下落したこともあり、売上高は前期比減少。
- 営業損益は前期比344億円改善し75億円の利益。

自動車サスペンション用
アルミ鍛造部品

機械関連事業

3,055 億円

(前年同期比 △7.7%)

金属加工機械や還元鉄プラント
の一部案件で、回復の兆しがあります。

- 自動車および石油精製、石油化学業界の設備投資が低迷し、関連製品の受注が減少。
- 金属加工機械や還元鉄プラントの一部案件で、回復の兆し。
- 結果、国内受注高は前期比1.6%増の1,304億円、海外向けが前期比42.1%減の637億円、事業全体の受注高は前期比18.6%減の1,942億円。
- 期末の受注残高は2,407億円
- 売上高は、大型案件の売上が集中した前期比では減少。
- 営業利益は前期比5億円減益の290億円。



大型圧縮機試運転設備



建設機械関連事業

2,600 億円
(前年同期比 △21.9%)



油圧ショベルは、中国向けが好調でしたが、クレーンは、世界全域で低迷しました。

- 油圧ショベルについては、中国での販売台数が、内陸部を中心に前年同期を大幅に上回る。国内、米国、欧州向けの販売台数は更に減少。
- クレーンの販売台数は、比較的堅調だった北米向けが在庫調整などの影響により前年同期比減少。国内、中東向けも前年同期を大きく下回る。
- 営業利益は前年同期比33億円減益の79億円。



ハイブリッドショベル 「SK80ハイブリッド」



不動産関連事業

462 億円
(前年同期比 +24.5%)



分譲マンションの引渡しが順調に推移しました。

- 不動産販売部門で、分譲マンションの引渡しが順調に推移したことなどから、売上高は前年同期比で増加。
- 営業利益は、前年同期比12億円増益の31億円。



ジークレフ塚口富松町



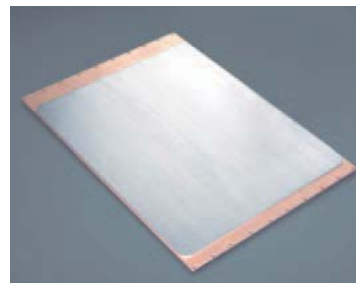
電子材料・ その他の事業

436 億円
(前年同期比 △20.9%)



試験分析事業の需要が低迷し、配線膜用ターゲット材の販売量も減少しました。

- 試験分析事業において、輸送機業界向けなどを中心に需要が低調に推移。
- 液晶配線膜用ターゲット材も販売価格、販売量ともに減少。
- 営業損益は前年同期に比べ33億円減益の2億円の損失。



ターゲット材

環境への取組みと 社会との共生



神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』

—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協同

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

■環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)

神戸製鋼グループでは、「環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)」を実施しています。これは、各家庭での電気・ガス・ガソリンなどの使用量をもとに、家庭からのCO₂排出量を把握することで、従業員自らが省エネルギーなどの必要性を認識し、ライフスタイルの変革に取り組むものです。

CO₂排出量削減の取組みが急務となっている状況を踏まえ、さらに参加者を増やすべく活動しています。

例えば、2010年4月から、これまでの記入用紙による参加に加え、インターネットからも参加が可能となるなど、利便性向上に努めています。

インターネットの画面表示例
(月毎の家庭からのCO₂発生量が
表示されている)



■石炭灰の有効利用でCJC会長賞を受賞

廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化に寄与する優れた技術やシステムを表彰する「資源循環技術・システム表彰」(財団法人・クリーン・ジャパン・センター主催、経済産業省後援)が、2009年10月2日に東京・科学技術館サイエンスホールで行なわれ、当社の「石炭灰の道路用資材としての有効利用」がクリーン・ジャパン・センター会長賞を受賞しました。

神戸製鋼では自家発電設備から発生した石炭灰を、セメント原料や土木用資材の一部としてほぼ全量を有効利用してきましたが、近年の公共工事縮小などに伴うセメント需要の低迷により、その用途の多様化が求められていました。一方で、これまで路盤材として使われてきた天然砕石は、天然資源の温存や環境保護のため、採取規制が厳しくなってきたことから、代替材が望まれていました。そこで、加古川製鉄所では鉄鉱石の事前処理プロセスで培った造粒技術、鉄鋼スラグ製品化プロセスで培った蒸気養生技術など、製鉄技術を応用したフライアッシュペレット(アッシュストーン)を開発し、道路用資材(路盤材)として製品化し2003年から製造を開始しています。

現在までに約50万tのアッシュストーンが路盤材として使用されており、天然資源の保全や採掘に係るエネルギー削減に加え、消費地に近い都市部での製造による運送エネルギーの低減など、循環型社会の構築に大きく貢献している点が高く評価され、今回の表彰となりました。



表彰式の様子

社会貢献への取り組み

神戸製鋼グループは、良き企業市民として、地域住民との交流や地域社会への貢献、地域の自然保護などに継続的に取り組んでいます。

六甲山の自然保護への取り組み

神戸製鋼の地域交流施設「灘浜サイエンススクエア」では、様々なテーマで開催している「自然教室」の一つとして、六甲山の植物、神戸の自然などに関する講演会を実施しています。参加者が六甲山の自然の豊かさを知ることで、身近な自然への思いを深め、環境意識の向上につなげたいと、開館当初から開催しており、2009年度は、7回の講演に約650名の参加がありました。

また、当社グループのコベルコシステム(株)では、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」から動植物の解説を受けながら六甲山を歩き、ゴミ拾いの清掃活動を行なう「六甲山クリーンハイク」や、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所の推進する「森

の世話人」活動に賛同し、社員のボランティアによる森林整備を行なっています。このほかヤマアジサイを挿し木により育成し、六甲山に植え戻す「植樹会」など、六甲山の自然保護に積極的に取り組んでいます。



六甲山の自然をテーマにした講演会



2009年に行なわれた第3回植樹会

ラグビーを通じての活動

ラグビーの普及活動

ラグビー普及活動の一環として、神戸製鋼コベルコスティーラーズでは全国各地の幼稚園、小中学校、高校、ラグビースクールを訪問し、ラグビーの楽しさを伝えつつ、技術指導も行なっています。また、部員不足により、大会に出場できないチームを対象とした「全国高等学校合同ラグビーフットボール大会」を2005年より開催しており、ラグビーの普及活動を積極的に行なっています。



ラグビースクール指導の様子

募金活動

2001年度より、特定非営利活動法人「日本せきすい基金」への募金活動を行なってきました。2009年8月24日には2008年～2009年シーズンに試合会場やイベントにて集まった寄付金を「Kobelco Steelers基金」と称し、東京都障害者福祉会館にて贈呈いたしました。また、2007年～2008年シーズンにクボタスピアーズと共に新潟県中越沖地震のチャリティーとして「新潟チャリティーTシャツ」を販売した売上金を2009年4月5日に全額寄付しました。この寄付金は新潟県長岡市の長岡陸上競技場に設置するゴールポストの費用として使用されました。

Corporate Data

事業分野

(平成22年3月31日現在)

■鉄鋼関連事業

普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼、
厚板、中板、薄板(熱延・冷延・表面処理)、鋼片、
鍛鍛鋼品、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、
スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、
各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス、
溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、
溶接関連試験・分析・コンサルティング業

■電力卸供給事業

電力卸供給

■アルミ・銅関連事業

飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、
各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔、
半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、
復水管、空調用銅管、
アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品、アルミ加工品

■機械関連事業

製鉄プラント(還元鉄・圧延等)、
各種プラント(非鉄・ペレタイジング・石油化学等)、
エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、砂防・防災製品、
土木工事、新交通システム、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、
真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、
各種環境プラント、資源再生、冷却塔、各種内燃機関、搬送機器

■建設機械関連事業

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ、クローラークレーン、
ラフテレーンクレーン、作業船

■不動産関連事業

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、
不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理

■電子材料・その他の事業

特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、
高压ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、
総合商社

連結子会社および持分法適用会社 [213社]

(平成22年3月31日現在)

■鉄鋼関連事業：64社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、
神鋼建材工業株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、
堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス、
神鋼総合サービス株式会社、KOBE ウェルディングワイヤ株式会社、
エヌアイウエル株式会社、青島神鋼溶接材料有限公司、
コウベ ウェルディング オブ コリア カンパニー リミテッド、
株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、神鋼鋼線工業株式会社、
関西熱化学株式会社、株式会社テザックワイヤロープ 他

■電力卸供給事業：1社

神鋼神戸発電株式会社

■アルミ・銅関連事業：28社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、
サン・アルミニウム工業株式会社、神鋼ノース株式会社、
神鋼メタルプロダクツ株式会社、
コウベ プレシジョン テクノロジー センディリアン ベアヘッド、
シンガポール コウベ プライベート リミテッド、
コウベ エレクトロニクス マテリアル(タイランド)カンパニーリミテッド 他

■機械関連事業：40社

株式会社神鋼環境ソリューション、コベルコ・コンプレッサ株式会社、
神鋼造機株式会社 他

■建設機械関連事業：47社

コベルコ建機株式会社、コベルコクレーン株式会社 他

■不動産関連事業：8社

神鋼不動産株式会社 他

■電子材料・その他の事業：25社

株式会社コベルコ科研、神鋼 JFE 機器株式会社、
コウベ スチール USA ホールディングス インコーポレーテッド、
神鋼商事株式会社、日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)1. ※印は持分法適用会社であります。

(注)2. 本年4月1日付で神鋼機器工業株式会社が神鋼JFE機器株式会社を吸収合併しております。

取締役および監査役、執行役員

(平成22年6月23日現在)

取締役社長(代表取締役)
佐藤廣士

■本社

取締役副社長(代表取締役)
賀屋知行
専務取締役
川田 豊
専務取締役
藤原寛明

常務執行役員
泉 博二
常務執行役員
関 勇一
常務執行役員
川崎博也

執行役員
金子 明
執行役員
花岡正浩

■鉄鋼事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*山口育廣
常務執行役員
津村拓良
常務執行役員
尾上善則
執行役員
塚本晃彦

執行役員
梅原尚人
執行役員
宮脇新也
執行役員
宮下幸正
執行役員
岩佐道秀

執行役員
河瀬昌博
執行役員
藤井晃二

■溶接事業部門

常務取締役
*粕谷 強

執行役員
高村実朗

■アルミ・銅事業部門

専務取締役
*高橋 徹
専務執行役員
下村良介

執行役員
濱中龍介
執行役員
佐藤孝彦

■機械事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*重河和夫

常務執行役員
榎木一秀

執行役員
大濱敬織

■資源・エンジニアリング事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*松谷高志
専務執行役員
田中 順

常務執行役員
沖田誠治
執行役員
眞部晶平

■社外取締役

取締役
中野淳司

取締役
北畑隆生

(注)※印は、各事業部門長であります。

監査役(常勤)
大越年祝
監査役(常勤)
宮崎 純

監査役(社外監査役)
金子宗輔
監査役(社外監査役)
池田義一

監査役(社外監査役)
佐々木茂夫

会社の概要

(平成22年3月31日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 243,853名
- 従 業 員 数 10,129名

事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号

☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号

☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・

新潟(新潟市)・北陸(富山市)・

四国(高松市)・中国(広島市)・

九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海外事務所 ニューヨーク・デトロイト・シンガポール・北京・上海

(注)「海外事務所」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 <鉄鋼・溶接部門>加古川・神戸・高砂・藤沢・茨木・西条

<アルミ・銅部門>真岡・長府・大安

<機 械 部 門>高砂・播磨

株式をどちらにお預けですか？

※ご一読ください

株式を証券会社にお預けでしょうか。

このページをご一読いただき、ご確認くださいませよう願いたします。

(1) 特別口座とは

平成21年1月に実施された株券電子化により、それまでに証券会社にお預けでなかった当社株式は三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」にて管理しております。「特別口座」では単元株式の売買はできず、その他お手続きにも制約があります。証券会社の口座に移管することをお奨めします。(手続きの詳細は(3)をご覧ください。)

(2) 特別口座で管理されている株式の有無のご確認のお願い

次のような場合は、ご所有株式の全部または一部が特別口座にて管理されている可能性があります。

①お手許に「株券」をご所有のままで証券会社にお預け
にならなかった場合

②登録株式の場合

(当社が株券を発行することなく、ご所有されている
と株主名簿に“登録”のみさせていただいた株式)

※平成元年3月末時点の株主様には、同年5月18日に、1,000
株につき30株を②の登録株式の形で交付しております。平
成元年3月末以前から引き続いて当社株式をお持ちいた

ている株主様、ご所有株式を過去に売却もしくは譲渡され
たにもかかわらず、現在も当社から株主様宛ての各種書面が
届く方につきましては、現在、特別口座で管理されている株
式をお持ちの可能性がございます。

③配当金関係書類に記載の所有株式数と、証券会社にお
預けの株式数が異なる場合
(配当金関係書類は6月1日に発送しております。)ご
所有株式数”の欄をご確認下さい。)

(3) 「特別口座」から証券会社の口座への株式の移管の方法

証券会社に口座を
開設する。

すでに証券会社に株式の取扱
いができる口座をお持ちであ
れば、新たに開設の必要はあ
りません。



三菱UFJ信託銀行に、
振替用の請求用紙を
請求する。



送られてきた請求用紙に
必要事項を記入・押印して、
三菱UFJ信託銀行に
送付する。



これで
手続きは
完了です。

証券会社の口座に
株式が移管されます。

<特別口座についてのお手続きお申込み先、お問い合わせ先>

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL 0120-094-777



工場見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。今回ご覧いただく工場は、アルミ圧延を行なっております真岡製造所(栃木県真岡市)でございます。つきましては下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



見学工場：真岡製造所
(栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15)

対象者：平成22年3月31日現在、当社株式
1,000株以上をご所有の株主様

工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成22年)	集合場所	集合時間	解散場所・予定時間
①	11月6日	JR宇都宮駅近辺	8:50	JR宇都宮駅近辺 13:20頃
②	11月6日	JR宇都宮駅近辺	12:25	JR宇都宮駅近辺 17:00頃
③	11月7日	JR宇都宮駅近辺	8:50	JR宇都宮駅近辺 13:20頃
④	11月7日	JR宇都宮駅近辺	12:25	JR宇都宮駅近辺 17:00頃

※JR宇都宮駅までの所要時間:JR東京駅から東北新幹線で約50分。

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

募集人数：160名(各回40名) ※募集人数には同伴者を含みます。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。

※ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。

抽選の結果は8月末にご通知する予定です。

※同伴者は1名までとさせていただきます。

※以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。

- 株主様ご本人からのご応募でない場合
- 同伴者様を2名以上ご記入の場合
- 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合

応募方法：同封のはがきに必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

【締切日:平成22年7月23日(金)当日消印有効】

参加費：無料

※ただし、集合・解散場所(JR宇都宮駅)までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

お問い合わせ先：株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係
TEL 078-261-4067
受付時間 10:00～17:00(土・日、祝日を除く)

これまでの株主様工場見学会開催状況のご報告

当社では、株主様工場見学会を5回開催してまいりましたが、いずれの回も、全国から多数のご応募を頂戴しております。毎回多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、今回も皆様のご応募をお待ちしております。

〈これまでの開催実績〉

	日時	開催場所	募集人数	ご応募総数	ご覧いただいた施設、工程など
第1回	平成20年 3月 1日～ 2日	加古川製鉄所	280人	3,882通	第2高炉、厚板工場、原料ヤード、防塵ネット
第2回	平成20年11月 1日～ 2日	加古川製鉄所	300人	3,835通	第2高炉、熱延工場、原料ヤード、防塵ネット
第3回	平成21年 3月14日～15日	真岡製造所	160人	1,150通	アルミ溶解・面削・粗圧延・仕上げ圧延・連続焼鈍の各工程
第4回	平成21年11月11日～12日	高砂製作所	240人	2,890通	鋳鍛加工工場、チタン工場、機器工場、鍛圧工場、産業機械工場
第5回	平成22年 3月 7日～ 8日	加古川製鉄所	300人	3,318通	第2高炉、厚板工場、原料ヤード、防塵ネット

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告
(当社ホームページをご覧ください。)

<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土日祝日を除く9:00～17:00

KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、無塩素漂白による、古紙パルプ15%、植林木・間伐材パルプ85%の用紙と、植物油-インキを使用しています。